

## 【特集】東日本大震災の状況報告と活動報告

### 応急給水支援活動に従事して

#### 遠藤 智義(高松市水道局)



平成23年3月11日午後2時46分頃発生したマグニチュード9.0の大地震とそれに伴う巨大な津波によって被災された方々に心からお見舞いを申し上げますと共に、現在も被災地で復旧復興支援およびボランティアに従事されておられる皆様方に敬意を表します。

私は3月13日から16日まで宮城県内で応急給水支援活動に従事しておりましたが、震災発生直後の給水所は小さな子どもからお年寄りの方までがペットボトルや鍋などを持参し、ひとり数%の飲料水を何時間も列んで持ち帰っておられました。

給水支援活動をしていた際に大勢の方から「助かった・・・ありがとう」と涙ながらに感謝の言葉を掛けていただいたことが今でも記憶から離れません。

普段、蛇口をひねれば当たり前のように出ている「水」の大切さを水道マンとして恥ずかしながら再認識させられた瞬間でありました。

東日本大震災発生から3ヶ月以上が経ちましたが、被災地はまだまだ大変な状況です。

被災地の方々の悲しみ、ご苦労を考えると胸がとても痛みます。

今こそJapan-YWPメンバーの力を合わせて一日も早くこの国の復興に繋がればと心から願うものであります。

高松市水道局HP

[www.city.takamatsu.kagawa.jp/691.html](http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/691.html)



### 蛇口の水のありがたさ

#### 高荒 智子(福島工業高等専門学校)



福島県いわき市にある私の職場(福島工業高等専門学校)では教職員および学生が被災しました。3月11日の超巨大地震から4ヶ月が経ちましたが、市で活気のあった魚市場は静まり、瓦が崩れた民家にはブルーシートがかけられた姿が今も見受けられます。テレビではL字放送での災害情報が続いて、地震・津波・原子力発電所事故の三重苦からの打破は容易なことではないと感じます。

3月11日の本震および4月11日の余震で、いわき市ではほぼ全域に渡って断水しました。正に水道というライフラインの重要性を再確認することのできた経験でした。現在は、津波や地滑りなどの甚大な被害を受けた地域を除き、ほとんどの地域で水道が復旧してい

ます。

本震災発生後、いわき市では原子力発電所の事故による混乱があったものの、全国の水道関係者の応援で24時間体制の緊急給水や休日返上で水道復旧工事が進められました。給水援助を通して、深い感謝と前向きな心を抱いた市民は少なくなかったはずです。震災の爪痕が残る中、市民は復興に向けて歩みを進めています。日常を取り戻すまでに多くの力強い援助を受けたことを忘れてはなりません。今日も蛇口から出る水が有り難く感じられます。

福島工業高等専門学校HP

[www.fukushima-nct.ac.jp/](http://www.fukushima-nct.ac.jp/)

### 目次:

【特集】東日本大震災の状況報告と活動報告  
応急給水支援活動に従事して 1  
(遠藤 智義)

蛇口の水のありがたさ 1  
(高荒 智子)

### 【近況報告】

海外研究活動  
～デンマーク・オルボー大学での研究  
活動報告～ 2  
(金田一 智規)

学会報告  
～IWA小規模排水処理の国際会議@  
ヴェネツィア～ 3  
(見島 伊織)

### 【Japan-YWPイベント報告】

第2回Japan-YWP-全国水道研究発表  
会ジョイントワークショップの報告 4  
(船橋 康史)

【私の1日のスケジュール】 4  
(岩波 美智子)

【Water Resources】  
“みず”に関するお薦めの情報 5  
(鎌田 素之)  
(矢口 光良)  
(辻野 雅子)

### 【先輩からの若手へのメッセージ】

未来は不確実、ゆえに若い世代は選  
択できる。 6  
(大垣 眞一郎)

### 【Japan-YWP運営委員からのお願いとお知らせ】

メンバー情報作成・送付のお願い 6

Japan-YWPとしての  
東日本大震災への対応 7

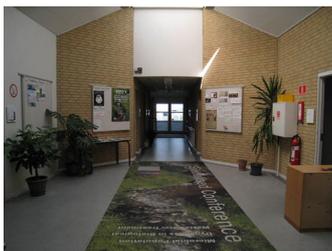
今後の活動内容 7

入会方法と問い合わせ先 7

編集後記 7



## 【近況報告】

海外研究活動～デンマーク・オルボー大学での研究活動報告～  
金田一 智規(Japan-YWP国際委員 広島大学)自転車道路(建物右から歩道、自転車道、  
駐車スペース、車道)

Nielsen教授グループの研究棟

雪が降るオルボー下水道処理場での  
汚泥サンプリング

2010年8月から2011年3月までJSPSの「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」により、デンマーク・オルボー大学にて研究する機会を頂きました。

オルボー(Aalborg)はデンマーク第四の都市(人口12万程度)で、北ユラン地方の中心都市です。オルボー大学は学生数14000人の総合大学で、留学生が12%程度占めます。デンマークの公用語はデンマーク語ですが、皆英語がとても堪能なことにまず驚きました。大学内はもちろんのこと、タクシーやバス、スーパーやレストランといったあらゆるところで英語で対応してもらえました。

そして、デンマークといえば「世界一幸福な国」と呼ばれるほどの高福祉の国。教育費、医療費、福祉費用などはほとんど無料で、私のような短期滞在者でもその恩恵を受けられる点はとてもありがたく感じました。しかし他方で、それは所得税50%、付加価値税(消費税)25%という非常に高い税金で支えられています。私の滞在時は円高ユーロ安(110円/ユーロ)でしたが、それでも物価は高いなと感じました。自動車にいたっては、保有する際に100%から180%の税金がかかります。そのため、自動車交通量は少なく、通勤・通学には冬でも自転車を使う人を多く見かけました。歩道脇には必ず自転車専用道が整備されていたのも印象的です。

オルボー大学ではDepartment of biotechnologyに所属するPer Nielsen教授のグループにお世話になりました。Nielsen教授は活性汚泥の微生物生態学が専門で、放射性同位体を用いた微生物機能解析においては第一人者です。グループ内には微生物ゲノム・タンパク質解析が専門の准教授が数名所属し、研究グループとして最新のトピックに対応できる構成になっていることに感心しました。

私自身はEBPRプロセス内の活性汚泥微生物の基質特異性をMAR-FISH法で解析するテーマに取り組み、汚泥サンプリング→培養→顕微鏡観察という実験を繰り返しました。このテーマを通し、多くのポスドクや教員と議論することができ、大変充実した日々でした。また、滞在中は博士論文公聴会や、学会、ゲストによる講演、大型プロジェクトのワークショップ等へ参加させていただき、ヨーロッパの著名な研究者と知り合えたことは非常に有益でした。

最後に本プログラムに関してご支援頂いた広島大学関係者の方々およびデンマークでの滞在中に関してお世話になった多くの方々に深く感謝いたします。

広島大学HP [www.hiroshima-u.ac.jp/](http://www.hiroshima-u.ac.jp/)



オルボーの街並み



## 【近況報告】

学会報告～IWA小規模排水処理の国際会議@ヴェネツィア～  
見島 伊織(埼玉県環境科学国際センター)

地中海に浮かぶ学会会場



学会会場と私



オープニングセレモニー



ポスター発表



MBR施設の見学

2011年4月18日から22日に、イタリアのヴェネツィアで開催された国際学会に参加しましたので、その内容をいとも簡単に報告したいと思います。本学会はIWAの3つのspecialist groupが共同でSSS 4 WATER (IWA conference Small Sustainable Solutions for Water)として開催した国際会議です。小規模分散型の上下水道処理などを中心として80程度の口頭発表、80程度のポスター発表が、それぞれ2会場ぐらいに分かれ、割とアットホームな雰囲気で行われました。

私は下水処理施設からの温室効果ガス発生抑制をテーマとし、小規模の下水処理施設において定期的に窒素除去特性、硝化・脱窒速度、 $N_2O$ 発生量の調査を行った結果をまとめ、ポスター発表をしました。ランチの時間にポスター発表をするという学会の趣旨でしたが、写真にも示すように、ポスター発表の会場はかなり閑散としていました。ポスターに張り付け発表者もほとんどいませんでした。理由は、ランチでワインが飲み放題なので、発表者を含めた参加者がワインにまっしぐらで、ポスターどころじゃないということです。そんななかで私は、しばらくの間ポスターに張り付き、ワインを片手に、2人(そのうち1人は日本人)もの参加者に、かなりまじめに内容を説明しました。高い評価をいただいたので、とてもうれしかったです。

発表は、小規模分散型水処理技術に関するものが主であり、とりわけMBRについての発表が多かったです。これらの最新研究の動向について確認、整理することができるいい機会になりました。また、下水処理だけではなく国際貢献や水環境全般の諸問題についても口頭発表やポスター発表が行われており、多種多様な情報を吸収することができ、大変刺激になりました。テクニカルツアーでは、MBRの施設などを見学しました。ヴェネツィアでは、スペースが少なく、厳しめの排水基準があることからMBRの施設が多く存

在するということでした。MBRの管理者は、川の水よりもクリーンな水を排出していることに誇りを持っているようでした。このことには深い感銘を受けました。

本学会のキーワードは小規模分散型です。そして、ヴェネツィアは小規模分散型の下水処理施設が歴史的に多く存在することで注目されている都市でもあります。今後、上下水道システムの効率的で持続可能な管理を積極的に推進し、小規模分散型と大規模集中型の戦略的な融合による水環境管理を目指す必要があります。今回、小規模分散型下水処理システムを運用する活力ある街ヴェネツィアにおいて、実際に見たこと、肌で感じたことの全ては私の生涯の記憶に残ることになりそうです。

学会は、ヴェネツィアの中心から船で10分ほどの島の中の会場で開催されました。私は、船を乗り継いでサボることなく毎日会場に向かいました。船の中で、穏やかな地中海式の気候を感じながら、物思いにふけたことは、水環境保全を目指す者としていい経験と息抜きになりました。ヴェネツィアは世界的な観光地であり、物価も高く感じました。しかし、そんなことは気にせず、毎晩イタリア料理を楽しみました。なかでも地中海でとれたロブスター？のハサミの部分はゲーに勝てそうなチョコキの形をしており、とても勇ましかったです。ワインもおいしくいただきました。

国際学会への参加は、自分の仕事を見つめ直し、そして新たな出発をするいい機会であると思います。今回は、自分の財布を傷めずに外部資金を用いて、あこがれの地ヴェネツィアの国際学会に参加することができ、大変幸せに思っています。今後は、今回の学会参加により得た有用な知見および貴重な体験を今後の仕事に活かしていきたいと思えます。グッツツイエ！

埼玉県環境科学国際センターHP

[www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/f16/](http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/f16/)



## 【Japan-YWPイベント報告】

### 第2回Japan-YWP—全国水道研究発表会ジョイントワークショップの報告 船橋 康史(Japan-YWP総務委員 大阪市水道局)



貝戸先生のご講演風景

第2回Japan-YWP-全国水道研究発表会ジョイントワークショップ 経営のための施策に関するご講演をいただきました。本ワークショップには、全国水道研究発表会の参加者を中心として開催されました。本ワークショップでは、「人口減少時代における社会資本のあり方と今後の水道事業経営」をテーマとして、民間企業、水道事業者、研究機関等から約60名が参加し、ご講演を受けて活発な議論が行われました。なおワークショップとして、専門家による講演、ディスカッションなどを行い、現在また終了後には、場所をかえて意見交換会が行われ、こちらには約30名の方が参加し、産・官・学の職種を越えた意見交換がなされ、若手間のネットワークを構築することを目的としておりました。



佐藤様のご講演風景

本ワークショップでは、専門家による講演として、大阪大学大学院工学研究科 貝戸清之 准教授より「人口減少時代における社会資本のあり方について」と題して、アセットマネジメントに関するご講演をいただき、さらに引き続いて、(株)浜銀総合研究所 地域経営戦略室 佐藤裕弥 室長より、「人口減少時代における今後の水道事業経営について」と題して、持続可能な水道事業

Japan-YWPでは今後もこのようなワークショップ等を企画していく予定としております。今年の3月には東日本大震災が発生し、我が国は本当に大変な状況であります。将来の水道界・下水道界のために、このJapan-YWPを活用し、水に携わる若手同士のネットワーキングを構築していただければと思います。

大阪市水道局HP <http://www.city.osaka.lg.jp/suido/>

## 【私の1日のスケジュール】

### 岩波 美智子(株式会社双日総合研究所)



#### 【自己紹介】

専門分野は官民連携によるインフラ整備・維持管理及びその実施のための規制制度で、インフラの中でも上水道部門を最も専門としています。弊社には入社後一年少々で、かつ、実は初の社会人経験を積んでいます。入社前はイギリスのバーミンガム大学でジャカルタの水道コンセッション契約の評価をテーマに博士論文を書きました。商社系コンサルタントでは多岐に渡る分野に関わります。現在は都市開発・輸出入調査・人材育成に関する案件に取り組んでいます。

忘録がてらランチブログを書いています。「さて、ランチに行きますか」 <http://d.hatena.ne.jp/lunchatakasaka/>

13:00 午後の業務開始

基本はデスクワークですが、時に打ち合わせや資料収集のために外出します。

18:00-19:00 退社／帰宅

帰宅途中に夕食の買い物等をします。外食する時もあります。

19:00 夕食／休憩

DVDを見たり、音楽を聞いたりして過ごします。

24:00 就寝

#### 【所感】

業務等を通じ、人的ネットワークや専門性の維持・拡大をしていきたいと思えます。

双日総合研究所HP <http://www.sojitz-soken.com/jp/index.html>

#### 【1日の流れ】

9:00 出社

当日の予定の確認、メールチェック、インターネットを中心にニュースを読みます。その後、自分が携わる案件の進捗状況に応じて優先順位をつけながら取り組みます。

12:00 ランチ

お弁当を買うか近場でとります。備



## 【Water Resources】 “みず”に関するお薦めの情報

鎌田 素之(関東学院大学)



3.11以降、放射線に関してwebでの情報収集を通じて、行政や市民が発信する数多くの情報を有志の方、見やすく、分かりやすくまとめているサイトが非常に有用でした。水道水、汚泥からも放射性物質が検出されたことで少なからず市民の信頼が損なわれ、信頼を回復するためにも水道に関する正しい情報を発信し、安全性についてアピールする必要があります。今回の放射線に関して示された手法をうまく活用すれば、高度なスキルやお金を掛けなくても分かりやすい情報は発信できる可能性を感じました。水道に関連しないサイトもございますが、3つほど紹介したいと思います。(サイトは短縮したURLで表記しています。)

●(財)食品流通構造改善促進機構

[bit.ly/kCaXrm](http://bit.ly/kCaXrm)

食材の放射能濃度を産地、月日を絞ってグラフと地図に表示できるサイト

●水道水中の環境放射線量グラフ

[bit.ly/qsNPKZ](http://bit.ly/qsNPKZ)

各都道府県での放射性物質の検出状況をグラフで見ることができるサイト

●Google Mapにプロットできるサイト

[bit.ly/pl6dGw](http://bit.ly/pl6dGw)

緯度・経度付きの測定データをGoogle Map上にプロット可能

関東学院大学HP [univ.kanto-gakuin.ac.jp](http://univ.kanto-gakuin.ac.jp)

## 矢口 光良(神奈川県内広域水道企業団総務部総務課所属横須賀市派遣 横須賀市上下水道局経営部経営企画課経営戦略担当)



文系で事務職である私が自信をもって紹介できるようなみずに関するお薦めのウェブサイトはないに等しいので、今回は専門知識のない者が、どのようにして水道水に対する放射線の脅威についての知見を得ようとしたのかをご紹介します。

東日本大震災から早3ヶ月以上立つものの、原発事故の深刻さや放射性物質の内部被曝危険性が認識されてきたのはやっとのことで、それは、既存メディアの力ではなく、ネット情報の集積によるところが大きいわけですが、PC : <http://www2.2ch.net/2ch.html>・モバイル : <http://c.2ch.net/test/~lifeline/i>の2ちゃんねるに貼られた客観的なソースへのアクセスが重要でし

た。そして、小出裕章京大原子炉実験所助教や広瀬隆氏、ブログで有名な武田邦彦中部大教授 (<http://takedanet.com>/水道界に好意的)を知ったり、YouTubeの動画やニコ動の記者会見生中継を通して、市民と同様に不安感を共有するところとなっています。

便所の落書きと批判される2ちゃんねるも一応は思想の自由市場であり、客観的なソースが呈示されていれば反証可能性という点で十分に科学であります。なお、私が所属する企業団についてその存在を知り採用試験のサイトにアクセスさせたのも実は2ちゃんねるでした。

神奈川県内広域水道企業団HP [www.kwsa.or.jp/](http://www.kwsa.or.jp/)

辻野 雅子(株式会社 明電舎)



今回、私がご紹介するのは、「水処理工学(第2版)～理論と応用～」(井出哲夫編著)です。有名な書籍なので、土木工学科の教科書としても使用されているようですが、バイブルと言えばこれ!というくらい参考にさせて頂いているのでご紹介させていただきます。

この書籍は、例題を駆使した本格的な理論書で、またその例題も具体的かつ豊富なので実用面で非常に参考にさせて頂いています。特に、排水案件では、ラポレベルで処理できるかを実験し、設計することが多いのですが、この「水処理工学」には、その理論が

記載してあり、理論値を予測し、実験値との差異を比較することができます。

最近では、活性炭吸着塔を設計する際、参考にさせて頂きました。多様な物質を含んでいる排水でしたので、ラポレベルの吸着速度試験やカラム試験を実施して、設計値を算出しました。私が所属している部署では、新米エンジニアからベテランエンジニアまで、新しい物件に取り組む際、この書籍を手にとって確認しています。

明電舎HP [www.meidensha.co.jp/](http://www.meidensha.co.jp/)



## 【先輩から若手へのメッセージ】

未来は不確実、ゆえに若い世代は選択できる。

大垣 眞一郎(独立行政法人 国立環境研究所 理事長)



<大垣先生のご略歴>  
 1974年 東京大学  
 工学系都市工学専攻大学院  
 博士課程修了 工学博士  
 東北大学 工学部 助手  
 1977年 東京大学 助教授  
 1983-85年 アジア工科大学 助教授  
 1988年 東京大学 工学部 教授  
 2001-03年 東京大学  
 工学系研究科長・工学部長  
 2008年より 独立行政法人  
 国立環境研究所 理事長  
 (この間、国際水協会(IWA)副会長、日本  
 学術会議副会長を務める。)

<専門分野>  
 都市環境工学、水環境工学

東日本大震災の1年ほど前に読んだ本の話から始めましょ。 「不連続変化の時代—想定外危機への適応戦略—(原題 The age of the unthinkable)」(ジョシュア・クーパー・ラモ著、田村義延訳、講談社インターナショナル、2009年12月)です。世界貿易センタービルのテロ(9.11)や金融危機、さらにはゲームの革新をした任天堂のWiiなども事例に入れて、今の時代は不連続に動いている、と規定しています。この不連続の動きにいかに対応するか、を論じているわけです。今回の東日本大震災の地震、津波、原子力発電所の事故を目の当たりに経験し、平常時の想像力がいかに貧弱なものであるか思い知らされました。この本の「不連続変化」という言葉が強く現実感をもって思い出されたのです。

水の専門分野での「不連続変化」について私の体験をお話しします。バイオテクノロジーや微生物の検出、同定などに欠かせない技術となっているPCR(ポリメラーゼ連鎖反応)技術は、1985年に発明されました。1989年頃には世界的に普及しました。研究者としての私個人にとっては、ちょうど水中の

ウイルス汚染や消毒技術の研究を始めた頃にあたります。DNA破片を試験管の中で無限に増やすことができるという、従来の培養法の技術とはまったく連続性を持たない新しい手法が、世界中に広がっていく様子を実感しました。昨日まではできなかったことが誰にでもできるようになったのです。新しいより性能の良いPCR増幅器がより安く、毎月のように売り出されましたので、購入時期に悩みました。微生物汚染や消毒技術の研究手段が全く変わっていったのです。まさに不連続変化でした。時代は変わるのです。

上のラモの本の中に、「未来を確実なものとしてではなく、不確実なものとしてとらえるのだ。」「われわれは選択できる。能動的になれる。」という表現があります。東日本大震災を経験した世代として、若い皆さんが、今の延長ではない良い意味の不連続な未来に向けて、能動的に想像力を働かせれば、さまざまな災禍にも対応できる、安心で豊かな社会をつくること

は可能です。期待しています。  
 独立行政法人国立環境研究所HP [www.nies.go.jp/](http://www.nies.go.jp/)

## 【Japan-YWP運営委員からのお願いとお知らせ】

## メンバー情報作成・送付のお願い

既にメーリングリストでもご連絡いたしました。Japan-YWPでは、会員同士のネットワーク構築に力を入れていきたいと考えております。入会時に所属や専門分野等をお聞きしておりますが、もう少し詳しいメンバー情報を収集し、各メンバーがどのようなことに興味をもち、どのような専門に携わっているのか、といったことを相互に知ることが、今後のメンバー間のネットワーク構築に役立つのではないかと考えております。これをきっかけに、実質的なつながり、交流が促進することを期待しています。

そこで、お忙しいところ申し訳ありませんが、上記のメンバー情報の作成の趣旨にご賛同いただける方は、[http://www.iwa-jnc.jp/ywp\\_04.html](http://www.iwa-jnc.jp/ywp_04.html)に掲載のメンバー情報のフォーマットにご記入後、岸田まで送付していただくと大変助かります。記入例も同ページ([http://www.iwa-jnc.jp/ywp\\_04.html](http://www.iwa-jnc.jp/ywp_04.html))に掲載しておりますので、作成の際に参考になさってください。強制ではございませんが、できるだけ多くのメンバーにご協力いただくと幸いです。なお、本メンバー情報は、Japan-YWP会員のみ限定閲覧とし、それ以外の利用は一切いたしません。また、今回作成いただいたメンバー情報は、定期的に更新していく予定です。

## &lt;記入上の注意&gt;

・言語: 日本語か英語のどちらかでも可。  
 ・「自分の専門に関連するIWA specialist group」: Japan-YWPは国際水協会IWAの下部組織です。IWAの中には、Specialist groupという特定のテーマを対象とした研究グループがあり、ワークショップなどを活発に開催しています。Specialist groupの一覧は添付資料を参照してください。ここでは、それぞれの専門・職務がIWAとどのようなつながりがあるのか、ということを考えるきっかけとして、自分に関連する/興味のあるSpecialist groupを選んでいただければと思います。今後、Japan-YWPのワークショップ・セミナーのトピック選定などに活用させていただきます。また、Specialist groupの情報も適宜提供したいと思います。

・「キーワード」: 研究や職務に関連するキーワードを自由に5つまでご記入下さい。(キーワード表は用意しておりません。)

・「研究・職務の詳細」、「自由記載欄」: 書式はありませんので、ご自由にご記入ください。

・送付および問い合わせ先:

国立保健医療科学院 生活環境研究部 水管理研究分野

主任研究官 岸田直裕 (Japan-YWP 戦略委員) [kishida@niph.go.jp](mailto:kishida@niph.go.jp)



## Japan-YWPとしての東日本大震災への対応

Japan-YWP運営委員一同

3月11日に発生した東日本大震災により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被害を受けられた皆さま、そのご家族に、心からお見舞いを申し上げます。

今回の震災では、私たちが関係する上下水道でも甚大な被害が発生しています。

Japan-YWPとしては、産官学のネットワークと多様なバックグラウンドを活かし、メーリングリストを使用した情報集約・提供を主に進めました。上下水道の被害状況、水道水の放射性核種の検出状況、浄水処理における放射性核種の除去性、水道水の放射能汚染に対する行政対応など、計30通程度のメールがメンバーから発信されました。また、有志による関連文献調査なども進め

られました。一方、メンバーを対象とした義援金活動への呼びかけに加え、IWAを通して各国のYWPにも日本の上下水道の被害情報をレポートし、義援金活動への協力をお願いいたしました。

復旧・復興はかなりの時間がかかることが予想されます。是非、継続的な支援と情報共有・交換を続けていながら、専門的な視点から状況を的確に理解していければと思います。本震災の被害や支援活動の情報共有には、引き続き本会のメーリングリストを遠慮なく活用ください。それぞれの機関で行っている支援活動の情報を共有することで、連帯できる部分も生まれると思います。メンバーの中にも被害に遭われている方がおられます。教育研究機関68名、公共機関・事業体49名、民間65名の計182名のJapan-YWPの力を結集できればと思います。

## 今後の予定(YWP活動予定、他イベント情報)

### (1) Japan-YWPイブニングセミナー

2011年7月22日(金)18:30より東京大学本郷キャンパス14号館(都市工学専攻)2F 144号室にて第1回Japan-YWPイブニングセミナーを開催いたします。このイベントは、メンバーそれぞれの情報を持ち寄り、自由で闊達な議論をする定期的なセミナーです。皆様のご参加をお待ちしております。申込および詳細につきましては、n.nakata@ax5.ecs.kyoto-u.ac.jp(中田典秀、京都大学)までお願いいたします。

### (2) 震災関連のセミナー

2011年9月3日(土)午後より、Japan-YWPでは震災関連のセミナーを開催いたします。上下水道の被害・復旧にならびに放射性物質・処理技術に関するテーマの講演会・勉強会になる予定です。詳細が決まり次第ご連絡致します。

### (3) 第2回総会およびセミナー

2011年12月の土曜日に第2回Japan-YWPの総会およびセミナーを開催致します。場所・講演テーマ等は現在協議中です。現在、詳細が決まり次第ホームページやニュースレターでお知らせいたします。

### (4) 水環境学会シンポジウム

2011年9月10-11日に、東北工業大学(八木山キャンパス)にて第14回日本水環境学会シンポジウムが開催されます。詳細は、<http://www.jswe.or.jp/event/symposium/index.html>をご確認ください。

### (5) IWA アジア太平洋地域会議(IWA-ASPIRE)

2011年10月2-6日に東京で第4回IWA-ASPIREが開催されます。詳細は<http://www.aspire2011.org>をご確認ください。尚、初日にはIWA若手水専門家プログラムワークショップ(IWA Young Water Professionals Workshop)が開催されます。詳細は下記に示すとおりです。

### (6) IWA若手水専門家プログラムワークショップ(IWA Young Water Professionals Workshop)

主催:IWA, Japan-YWP 日程:10月2日(日曜日)

時間:9:00-16:00

会場:東京国際フォーラム G701

使用言語:英語

概要:IWA若手水専門家プログラムワークショップは、上下水道や水環境問題に携わる若手のネットワークを促進することを目的とし、これからのアジア太平洋地域の水問題を広く議論します。また、異なる分野の経験ある専門家との交流や様々なキャリアの紹介なども予定しています。

## 入会方法と問い合わせ先

### ■入会方法

会員要件は、研究機関、自治体、企業等に所属する水関連の若手・学生とします。IWA-YWPの規定では原則35歳以下となっていますが、Japan-YWPでは35歳以上でも入会可能です。IWA会員であることの有無は問いません。また、年会費等は不要です。活動に興味のある方は奮ってご参加ください。

入会希望の方は、1)所属、2)氏名、3)生年月日、4)E-mailアドレス、5)専門

分野を明記の上、右記までお申し込みください。

宛先 [japanypw@gmail.com](mailto:japanypw@gmail.com) (担当:真砂佳史、真名垣聡)

### ■お問合せ

春日郁朗助教(代表、東京大学大学院) [kasuga@env.t.u-tokyo.ac.jp](mailto:kasuga@env.t.u-tokyo.ac.jp)

佐藤久准教授(副代表、北海道大学大学院) [satoh@eng.hokudai.ac.jp](mailto:satoh@eng.hokudai.ac.jp)

## 編集後記

今号は特集記事として東日本大震災の状況報告と活動報告を掲載させていただきました。また、新企画として、「私の1日のスケジュール」、「Water Resources みずに関するお薦めの情報」、「先輩から若手へのメッセージ」を始めました。IWA-YWP会員が相互に情報を発信できる

場として、今後とも、こちらのニュースレターをご活用頂けたら、幸いです。最後に、今号を編集するにあたり、お忙しい中原稿をお寄せいただきました皆様、ご協力ありがとうございました。

(Japan-YWP広報委員)

## Japan National Young Water Professionals Newsletter Vol.2

発行 :2011年7月12日

発行者 :Japan National Young Water Professionals(代表 春日郁朗)

編集 :Japan National Young Water Professionals広報委員

ホームページ :<http://www.iwa-jnc.jp/ywp.html>

